



フランス便り

2024年02月



小林千鶴

二月も終わりに近づき、私がフランスに来てから半年が経とうとしています。この半年で多くのことを学び、吸収し成長できた一方で、まだまだ実力不足だなと感じることも多々あります。今回のフランス便りは美術館編の第二弾にしたいと思います。

~MUSÉE ALSACIEN~

ストラスブールの古い家を利用した美術館で、住居、生活様式、信仰、宗教、農業、ワイン生産など、昔のアルザスの生活を垣間見ることができます。私が特に気に入ったのはアルザスの女性の洋服とキッチンです。

アルザスの女性の服装は現代に近づくとつれ、頭の上につけているリボンが大きくなっていき、服装が黒くなっているのが見て分かります。女性用の服の特徴は、赤いスカートと大きな弓形のリボンだと説明には記入されていました。インターネット上の情報によるとスカートは宗教によって色が違いカトリックのアルザス女性は赤いリングスカート「クット」を



着用し、プロテスタントのアルザス人女性はスカートは短く典礼暦に応じて、緑、青、赤、紫の「ロック」を着用するそうです。展示品を見る限り現在に近づくとつれ、赤いスカートではないものが展示されているためプロテスタントの人が増えていった時代があったのかなと思われ



ます。頭の大きなリボンも宗教によって少しずつ違い、プロテスタントは肩の高さで両脇が止まる結び目のある黒いリボン、カトリックの場合はリボンの裾は腰まで長さがあります。また、男性は金のボタンが付いた赤いベストに黒いジャケットとズボンが主流だったようです。コスチュームに刺繍された金のボタンの数は、着用者の富のレベルを表しているそうです。

キッチンの展示には、昔のキッチンの再現やクッキーの型、お皿や水を入れるカラフェなど沢山の物が展示されていました。

～Musée Archéologique～

19世紀末からロアン宮殿の地下に設置され、フランスで最も重要な考古学博物館の一つとなっているそうです。館内には石像や人骨、掘り出し物のほかに鎧なども飾ってありました。入口近くには、家の造りの説明のエリアもありました。この博物館は美術館と違い、歴史背景が分からないと展示品がどのようなものが理解できないため私は翻訳機片手に観覧しましたが、専門分野でもないので理解するのがとても難しくもっと詳しく背景を知ってからもう一度訪れたいと思いました。



～Musée du Louvre～



フランスにある最も有名な美術館で建物は地下2階から3階までの5フロアあり、2階と3階には主に絵画が、1階と地下1階には主に彫刻が飾られています。ルーブル美術館はフランス革命によって1793年に美術館になりましたが、それ以前は王宮として使われていました。現在は、紀元前7千年紀から1850年代までの作品が収められています。1日で全て見ることはできないことはないですが、作品が多すぎるためフロアごとに日を設けるのがベストな選択なのかなと思いました。また、行く前に少しでも絵画のことを調べたり、画家について調べておくとより楽しんで鑑賞することができるのかなと思いました。また、オーディオを聞くこともおすすめだと思います。私はもう一度

行く機会があったらオーディオガイドを聞きながら鑑賞したいと思いました。

まとめ

美術館や博物館に行くとその土地の歴史が分かったり、人の流れが分かるので言語の勉強にも役に立つしとても良い施設だと改めて感じました。学校の授業や日常会話でも軽く触れることはありますが博物館や美術館に行くとより詳しく学べて面白いです。フランスでは美術館や博物館が無料で入れる、または学生だと安くなるシステムがあるので学生のうちに色々な地域を訪れ、その土地の博物館や美術館に行ってみたいなと思いました。そして、引き続きフランス語の勉強も頑張らなければいけないと思いました。